



画像上：「氣比神社大鳥居」 画像下：『氣比宮社記』
(敦賀市立博物館より提供)

けひぐうしゃき 『氣比宮社記』について

『氣比宮社記』は、氣比社神司の平松周家（1701～1773）が宝暦11年（1761）に完成させた社誌である。周家は、六国史ほかの国書を参照するとともに、氣比社に残されていた古記録、古文書を尋ねだしてこれを編んだ。本講座では、実証的・学究的姿勢を維持した周家の仕事を追いながら、歴史史料としての意義について考えたい。

7/16(日) 13:30～15:00

会場：福井県立図書館 多目的ホール

講師：外岡 慎一郎 氏（奈良大学教授）

定員：60名（要申込み・先着順）

